



ARAI・NEWS

 (株)新井広武 〒330埼玉県大宮市東町2-12 ☎0486(41)3825-7

ヨーロッパというところは、よほど独創的な人が多いのでしょうか。ヘルメットについても、ここ10年ぐらいの間に、2つの大きな流れがヨーロッパからおこっています。今回は、そのことについてお話ししたいと思います。そのひとつは、75年頃からはじまった変形ヘルメットの流行です。あの頃はすこかった！カドのついたヘルメットや、天井にツノがついたヘルメットが次々に出て

これは、まるくなめらかな帽体には、とても取りつけられるようなしろものではありません。そこで、外から見ただけでは分らないように帽体にくぼみをつけたり、内側にメカの格納場所を設け、安全性を犠牲にして取りつけることになります。また、ほとんどがバイクに乗ったことのないような人が考えついたようなメカ。こんなに苦労して作ったシールド、どのくらい使い勝手があった




くる、それが大いにウケてF-1レーサーまでがかぶり出す始末。まともなヘルメットなど作っていると、流行に遅れて世の中からとり残されるんじゃないかと心配になる程でした。しかし、本来ヘルメットというのは、頭を護るための道具です。そのためにも、まるくなめらかな形状が一番いいのは当然。こんなバカな風潮が長つづきするはずはないと信じ、はオーソドックスなヘルメットを作りつづけました。結果は、案の定。潮がひくように、変形ヘルメットは世の中から姿を消してゆきました。

次にきた流れは、シールドのメカ合戦。やはりこれも、すさまじいものでした。ちょっと変わった動きをするシールドが出てきたなど思っているうちに、どんどんエスカレートし、どつきりするようなメカを持ったシールドが次々と登場。レバー式、ダイヤル式、ボタン式、きわめつけは電動式のものまで現われました。もう、マンガの世界ですね。複雑なメカには複雑な装置が必要で

か疑問です。

シールドは、かるく腕を曲げた位置で簡単に開閉でき、こわれにくいのが一番なのです。このようなヘルメット本来の目的を忘れたシールドメカ合戦。どこまで続くのだろうと見ていたら、どうやら終わりに近づいたようです。最近のヨーロッパの新型は、シンプルなメカのシールドがまた多くなってきました。

メーカーが乱立し、販売合戦が激しくなると、何かと目立ったことをして売ろうとします。しっかりとした製品づくりの信念がないと、ヘルメットの本質を見失ない、道はずれて走りだす。そして事故になり、また基本にもどる。結局、こんなことのくり返しなのでしょう。ヘルメット本来の機能を無視した流行など、そう長くはつづかないのです。

は、世間の風潮にまどうことなく、常に本質を見つめながらヘルメットの理想を追いつづけます。安心していただけるヘルメットをおとどけするために。